

学力調査等の状況
令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、国語(平均正答率62%)、数学(59%)は、全国平均(58.1%、52.5%)を上回り、東京都の平均とほぼ同じであった。昨年度の数学は、全国平均を下回っていたが、今年度は上回った。昨年度に比べると「今回の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」という質問に対する回答で、「全ての書く問題で書くことを努力した」が、意欲的に解答したことが伺える。国語についても同様である。日ごろから、振り返りを書かせたり、自己評価をさせたりすることで、文章力が高まっているのではないかと考えられる。

見えてきた課題
上記のように、平均正答率が上がってきているが、二極化が進んでいる。特に数学については、平均値に近い生徒が少なく、上位層と下位層に分かれている。学校での定期考査等でも、二極化は顕著である。数学は習熟度別を実施しているが、さらに個別最適な学びにおける「指導の個別化」を図り、苦手な生徒に対する指導を強化していく必要がある。「諦めずに書くこと」については、成果が見られるので、今後も振り返りや自己評価についての取り組みを継続していく。

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	・プロジェクターを活用した授業を行う。 ・Chromebook等を活用し、共同編集作業に取り組ませる。
見通しをもたせる導入	・生徒に、何を学ぶか、どのように学ぶか、見通しをもたせる。 ・学習の流れやめあてを提示する。
振り返りの設定	・本時のめあてを振り返らせる。 ・本時の学習を自己評価させたり、学習内容をまとめさせる。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	○「文章読解力・文章作成力・語彙力」の育成を図るために、教科の特性に応じた言語活動を充実させる。 ○学習の目的を明確にしたワークシートや副教材等の活用を通して、基礎的な読解力・語彙力・漢字力を身に付けさせる。 ○ICT機器を活用したプレゼンを行い、表現力の育成を図る。	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、ワークシート等で流れを提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○文章読解力の向上のために授業内で、より考えを深めるためにグループワークを積極的に行う。 ○表現力の向上を目指し、ICT機器を活用した調べ学習とプレゼンソフトを使った発表活動をグループ単位で行う。	○「文章読解力・文章作成力」の基礎を養い、「表現・言語活動」を充実させるために、スピーチやプレゼンテーションなどの指導をICTを活用し行う。 ○ワークシートや副教材の活用と定期的な振り返りテストをとおり、基礎的な読解力・語彙力を高める工夫を行う。 ○特にプレゼンテーションの単元においては、クロームブックを活用し、協同学習を行うことで、表現力を高めていく。	○文章読解力の向上のために授業で話し合い活動を積極的に設定しより深く読むことに対して意欲の向上を図る。 ○読解に必要な語彙力の向上のために、授業開始時に漢字の書き取り練習と小テストを行う。 ○表現力の向上を目指し、ICT機器を活用した調べ学習とプレゼンソフトを使った発表活動をグループ単位で行う。
社会科	○ICT機器を活用した授業を通して、生徒の関心・意欲を高めさせる。また生徒自身がICT機器を活用した調べ学習を通して、考える力やプレゼン能力の育成を図る。 ○本時のめあてを明示し言葉の意味を解説することにより、基礎的な内容を理解させる。また、小テストを実施することにより、基礎学力の定着を図る。	○各単元で、ICT機器を活用した調べ学習やプレゼンテーションを生徒にさせ、考える力やそれをまとめる力、プレゼンテーション能力を育成する。 ○各単元、各授業でめあてを明示し、そのめあてを達成できるように授業を進めた。また、思考の土台としての知識の定着を図る授業を行う。	○生徒が問いを設定し、自ら調べる学習を行う中で、ICT端末を使った情報整理をする。 ○教科書に書いてある情報を伝達するだけではなく、相手の知識の定着を図るための情報共有をする。 ○本時の問いだけではなく、単元を通した問いやパフォーマンス課題の設定など、生徒が見通しをもちながらも主体的に学習に取り組めるような環境作りに配慮する。 ○学習支援ソフトを適宜活用し、基礎学力の定着を図る。	○調べ学習やまとめ学習、プレゼン学習などを通して、ICT機器を活用し、生徒の関心・意欲を高めることができた。今後は更なる効果的な活用を目指す。 ○毎時間、めあてを明示し、やるべき課題や身に付けるべき知識を示すことができた。今後はキュビナの活用を更に増やしていきたい。
数学科	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○ICT機器を授業に活用し、課題を視覚的にとらえ、生徒が理解しやすいような提示方法を工夫することにより、数学的な見方や考え方の伸長を図る。また、話し合い活動や発表を活性化させる。 ○毎時間、授業内容を振り返らせ、学習内容の定着を図る。	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○授業内容を工夫し、「指導の個別化」を図る。 ○ICT機器を授業に活用し、課題を視覚的にとらえ、生徒が理解しやすいような提示方法を工夫することにより、数学的な見方や考え方の伸長を図る。また、話し合い活動や発表を活性化させる。 ○毎時間、授業内容を振り返らせ、学習内容の定着を図るとともに、言語での説明能力を高める。	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○授業内容を工夫し、「指導の個別化」を図る。 ○ICT機器を授業に活用し、課題を視覚的にとらえ、生徒が理解しやすいような提示方法を工夫することにより、数学的な見方や考え方の伸長を図る。また、話し合い活動や発表を活性化させる。 ○毎時間、授業内容を振り返らせ、学習内容の定着を図るとともに、言語での説明能力を高める。	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○授業内容を工夫し、「指導の個別化」を図る。 ○ICT機器を授業に活用し、課題を視覚的にとらえ、生徒が理解しやすいような提示方法を工夫することにより、数学的な見方や考え方の伸長を図る。また、話し合い活動や発表を活性化させる。 ○毎時間、授業内容を振り返らせ、学習内容の定着を図るとともに、言語での説明能力を高める。
理科	○授業の始めに目標を提示し、見通しをもたせるとともに、授業の終わりに振り返りを行い、学習内容の深い理解につなげる。 ○実験・観察が不可能な場合、ICT機器を用いて動画を見せたり、原理の説明したりする。 ○実験や観察結果のまとめ、発表にICT機器を活用することにより、自然における事象・現象を科学的に思考する力や言語活動の充実を図る。	○授業の始めに「学習内容＝めあて」を提示し、授業の終わりにめあてについて振り返り時間をつくるように心掛けたが、その時間が十分とれなかったため、今後は時間をとれるようにする。 ○計画していた実験はほぼ実施したが、実施できなかったときは、ICTの活用(動画)や教師の演示実験などでフォローする。 ○生徒実験の結果をスプレッドシートに入力させ、クラスの結果を共有し考察する。スライドを使った探究学習をしたので、発表をする。	○授業の始めに目標設定や演示実験を見せ、興味関心を引き立てる。授業の終盤で実験の仕組みと今日の目標がどのようにリンクするのか、振り返る。 ○演示実験などで分かりにくい場面のどは映像を使い、スローモーションにするなどしながら丁寧に説明していく。 ○実験結果を既習事項と合わせてスライドにまとめ、日常生活を関連させ、班で発表させる。	○授業の始めに目標設定や演示実験を見せ、興味関心を引き立てる。授業の終盤で実験の仕組みと今日の目標がどのようにリンクするのか、振り返る。 ○演示実験などで分かりにくい場面のどは映像を使い、スローモーションにするなどしながら丁寧に説明していく。 ○実験結果を順序だてて説明できるようにワークシートにまとめる。 ○単元が終了したら既習事項を利用した新しい製品などを考案させながらまとめ、日常生活とリンクさせる。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

外国語科	○デジタル教科書、ICT機器を用いた導入と活動で生徒の学習意欲と思考力の向上を図る。 ○スピーチ、ロールプレイングを主としたパフォーマンステストを行い、主体性と表現力の育成を図る。 ○ワークシートやアプリケーションツールを用いて学習内容の振り返りと反復練習を行うことにより、基礎基本の定着を図る。	○chromebookを用いた学習活動を取り入れて学習意欲をより高めていきたい。 ○パターンプラクティスの活動、スピーチやインタラクションのパフォーマンステストを行い、生徒の英語を使う運用能力の向上を目指す。 ○kahootやgoogle classroomを利用した振り返り活動を行うことで学んだことの定着を図る。	○授業のめあて、流れを毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○デジタル教科書、ICT機器を用いた導入と活動で生徒の学習意欲と思考力の向上を図る。 ○毎学期パフォーマンステストを行い、主体性と表現力の育成を図る。 ○ワークシート等を用いて宿題を課し、学習内容の振り返りと反復練習を行うことにより、基礎基本の定着を図る。	○毎時間の目標をペアで共有することで学習への意欲づけを行う。 ○デジタル教科書やICTを使っている音読を行ったり、英語のゲームなどの活動を通して、生徒の学習意欲と思考力の向上を図る。 ○パフォーマンステストを毎学期計画的に実施し、生徒の表現力を測ることで、授業改善に生かせるようにする。
各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	○授業の始めに目標や活動内容を説明し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○ICT機器を活用して生徒が視覚的に学ぶことができる授業展開を工夫する。 ○表現活動について、学習を振り返る時間を設定し、「できたこと」や「課題」を考えさせ、次の授業に生かせるようにする。	○授業の始めに目標や活動内容を説明し、適宜先の授業の内容も伝え、見通しをもたせる。 ○鑑賞の授業については、ICT機器を活用して視覚的に学ぶよう工夫した。しかし、ICT機器活用が少なかったため、増やしていく。1月はプレゼンの機会も設定する。 ○表現活動について、ワークシートを活用し、目標や振り返り、課題を考えさせる時間を設定し、目標に向けての意識が高まり、主体的に取り組もうという姿勢を培う。	○授業の始めに目標や活動内容を説明し、適宜先の授業の内容も伝え、見通しをもたせる。 ○鑑賞の授業については、ICT機器を活用して視覚的に学ぶよう工夫した。しかし、ICT機器活用が少なかったため、増やしていく。 ○表現活動について、ワークシートを活用し、目標や振り返り、課題を考えさせる時間を設定し、目標に向けての意識が高まり、主体的に取り組もうという姿勢を培う。	○授業の始めに目標や活動内容を説明し、適宜先の授業の内容も伝え、見通しをもたせる。 ○鑑賞の授業については、ICT機器を活用して視覚的に学ぶよう工夫した。しかし、ICT機器活用が少なかったため、増やしていく。 ○表現活動について、ワークシートを活用し、目標や振り返り、課題を考えさせる時間を設定し、目標に向けての意識が高まり、主体的に取り組もうという姿勢を培う。
美術科	○授業の目標や流れを生徒がいつでも見られるようにし、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○ICT機器を活用し、資料収集、意見共有を行わせることにより、主体的で対話的な学習につなげる。 ○鑑賞活動や相互の作品の意見交換を通じ、言語活動を充実させる。	○授業の最初に「本時のねらい」を提示し、進行状況を確認させる。また、自己評価表に本時の振り返りを記入させ、次回の時間の確認を進める。 ○ICT機器の仕様や自由に相談、作品の相互鑑賞を取り入れて発想を広げる手立てにする。 ○生徒が制作した作品から作者の心情を理解したり造形的な美しさを感じるための鑑賞活動を進める。	○授業の最初に「本時のねらい」を提示し、進行状況を確認させる。また、自己評価表に本時の振り返りを記入させ、次回の時間の確認を進める。 ○ICT機器の仕様や自由に相談、作品の相互鑑賞を取り入れて発想を広げる手立てにする。 ○生徒が制作した作品から作者の心情を理解したり造形的な美しさを感じるための鑑賞活動を進める。	○授業の最初に「本時のねらい」を提示し、進行状況を確認させる。また、自己評価表に本時の振り返りを記入させ、次回の時間の確認を進める。 ○ICT機器の仕様や自由に相談、作品の相互鑑賞を取り入れて発想を広げる手立てにする。 ○生徒が制作した作品から作者の心情を理解したり造形的な美しさを感じるための鑑賞活動を進める。
保健体育科	○授業導入時における補強運動の工夫により、体力の向上を図る。 ○学習カードの活用と単元テストでの問題の工夫により、種目の関心を高め、知識の定着を図る。 ○ICT機器の活用により、積極的に自己の課題改善に取り組む態度の育成を図る。 ○アクティブラーニングを取り入れることにより、思考力・判断力を高める。	○体力テストの結果を参考にし補強運動の内容を精査・改善する。 ○学習カードを活用し、発表の場を設け、知識の定着や思考力向上につなげる。 ○ICT機器を活用し、自他の技能の振り返りや課題改善ができるように機会を設ける。	○体力テストの結果を参考にし補強運動の内容を精査・改善する。 ○学習カードを活用し、発表の場を設け、知識の定着や思考力向上につなげる。 ○ICT機器を活用し、自他の技能の振り返りや課題改善ができるように機会を設ける。	○体力テストの結果を参考にし補強運動の内容を精査・改善する。 ○学習カードを活用し、発表の場を設け、知識の定着や思考力向上につなげる。 ○ICT機器を活用し、自他の技能の振り返りや課題改善ができるように機会を設ける。
技術・家庭科	○授業のめあて、目標を毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○ICT機器を活用し、作業の手順などについて視覚的に理解させる。 ○動画やアニメーション利用して、機械や道具の仕組み等の知識を深めさせる。 ○実習を通して原理や手順を理解させることにより探究的な学習につなげ、主体的に考える力を育てる。	○授業の始めに目的を説明し、本時の流れが見通しをもたせる。 ○ICTを活用して、作業手順を説明してから作業を行う。基礎的なスキルを身に付けさせることで、主体的に課題へ取り組む態度の育成を図る。 ○アイデアについてグループで検討し、長所・短所をchromebookで発表させる。他の人の考えをクラス全体で共有する場面を設ける。	○授業の始めに目的を説明し、本時の流れが見通しをもたせる。 ○ICTを活用して、作業手順を説明してから作業を行う。基礎的なスキルを身に付けさせることで、主体的に課題へ取り組む態度の育成を図る。 ○アイデアについてグループで検討し、長所・短所をchromebookで発表させる。他の人の考えをクラス全体で共有する場面を設ける。	○授業の始めに目的を説明し、本時の流れが見通しをもたせる。 ○ICTを活用して、作業手順を説明してから作業を行う。基礎的なスキルを身に付けさせることで、主体的に課題へ取り組む態度の育成を図る。
総合的な学習の時間	・奈良、京都、東京など日本を支えている都市の歴史や伝統文化、食文化、労働などについて調査・研究・発表を行い、自己の将来の生き方について主体的に考える能力や態度を養う。 ・自ら課題を見つけ、「調べる」「まとめる」「発表する」など体験的・探究的な学習を充実させ、ICT機器を活用しながらプレゼン能力を高める指導を行う。	・東京グローバルゲートウェイへの校外学習を通して、多文化への理解を深めることで自己理解を深めるとともに、コミュニケーションの大切さを主体的に考える能力や態度を養う。 ・職業について学ぶ過程において、課題を見つけ、インタビューなどの調べ学習を通して探究し、ICT機器を活用してその成果を発表するなどのプレゼン能力を高める指導を行う。	○社会を支えている様々な職業を調べ、発表を通して共有し職場体験に向けて仕事の大切さを深めていく。仕事の目的、自分の興味・適性など、職業に就くための進路の考え方について考える態度を養う。	○修学旅行の事前・事後学習を通じ、京都、奈良の歴史と文化について学ぶ。また、まとめ新聞を共同制作で作り、生徒同士の創造性と発信力を高めさせる。 ○自分が希望する進路の決定に向けて、自分自身のことを振り返り、適切な進路選択が行えるようにする。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

特別の教科 道徳	・その時間の指導のねらいや重点が道徳的心情・道徳的判断力・道徳的態度のいずれの側面にあるのかを踏まえ、授業の意図及び視点(道徳的な価値観の理解、多面的・多角的な考え、道徳的価値を自分の生き方に結びつけた考え)を明確にする。 ・道徳的实践力を高める授業のあり方、評価方法に対する理解を深め、工夫する。	○授業のねらいや考えていくことを毎時間提示し、生徒に学習内容の見通しをもたせる。 ○話し合い活動を積極的に設定することにより、自分の考えや他者の考えを比較したり、考えを深めたりすることを進める。 ○評価の方法の検討を進める。	○その時間の指導のねらいを明確にし、道徳的心情・判断力・態度へ迫る、授業内における発問を工夫する。 ○他者との対話の時間を確保することで、多角的・多面的な考えに触れる機会をもたせる。 ○毎時間に、その時間で育んだ気持ちを、自分事としてどう生かしているかの振り返りを行う。また、個人内評価の場面を各学期に設定する。	○その時間の指導のねらいを明確にし、道徳的心情・道徳的判断力・道徳的態度に結び付ける発問をし、他者との対話の中で、道徳的な価値観の理解を深化させるために、グループワーク等を取り入れる。 ○毎時間に道徳的实践力を高めていけるよう、その時間で学び得たことについての振り返りを行う。また、個人内評価の場面を各学期に設定する。
---------------------	---	---	---	---

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	・学級活動、生徒会活動、学校行事等の集団的活動を通して規範教育を推進し、リーダーを育成する中で、自主性と協調性を育み、生徒会活動・委員会活動等の活性化を図る。また、生徒と教師、生徒同士のふれあいを通して、社会性を身に付けた感性豊かな生徒集団の育成を図る。	各学級で足並みをそろえた規律の指導を行い、リーダーとフォロワーを育成する中で生徒同士の協調性を高くしている。また、生徒会活動や委員会活動では生徒の主体性を育み、様々な学年とのかかわりの中で社会性を身につけさせる。学校行事で様々な課題に取り組むことで感性豊かな生徒集団の育成を図る。	○校内行事をはじめとし、各活動の中で中学生としての自覚をもたせる活動を行う。上級生が活動する様子から学びながら、自主性と協調性の涵養を図る。 ○校内行事等の中で、実行委員や係の活動を充実させる。役割を担わせることで、規範的な活動を意識させ、リーダーを育成していく。その上で学級内での活動を充実させ、生徒同士の触れ合いの機会を確保し、感情豊かな生徒集団を育成していく。	○校内行事をはじめとし、各活動の中で最上級生としての自覚をもたせる声掛けを行う。その上で、下級生とともに活動することで、自主性と協調性の涵養を図る。 ○校内行事等の中で、実行委員や係の活動を充実させる。役割を担わせることで、規範的な活動を意識させ、下級生の規範となるよう指導していく。また、学級内での活動を充実させ、生徒同士の触れ合いの機会を確保し、感情豊かな生徒集団を育成していく。人のために行動できる人材を育成する。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)